

学校名 塩尻市立塩尻中学校

氏名 笹平 さやか

令和6年度 県外視察報告書

視察先所在地 岡山県岡山市東区西大寺上1丁目19-19

視察先機関名 学校法人 森教育学園 岡山学芸館高等学校

○視察テーマ

高い実績を残す岡山学芸館高等学校吹奏楽部の生徒たちが、日々どのような姿で練習し、何を大切にして音楽指導を受け練習しているのか、生徒の様子から学び、自分の音楽指導に取り入れる。

【令和6年度大会実績】

第72回全日本吹奏楽コンクール高校の部 金賞 7大会連続10回目の金賞受賞、全国大会20回出場
1974年創部、本年度創部50周年 顧問である中川重則先生 全国大会長年出場表彰（15回出場）
テレビ番組や書籍でも取り上げられている。

○視察報告

1 吹奏楽部・学校・生徒の様子について

昨年度の全国大会ライブ配信や、今年度の配信データを聴かせていただき、リードという名曲への向き合い方、作りあげ方、洗練されたサウンドに大変憧れと興味を持った。また、中川先生のご指導と文武両道の中で、結果を出し続けている吹奏楽部の日々の様子から学びたいと強く思い、岡山学芸館高校での県外視察を希望した。

強化指定部となる吹奏楽部は、今年で創部50周年を迎え、高校1～3年生と中学生部員数名の約120名の部員が在籍している。ひと学年あたりの部員数は、40名程。新体制になって80名。夏のコンクールに出られていたのは55名。3年生の中でもコンクールに出られない部員が10名程いるようで、入学前や入部にあたってのオーディションから、3年生になるまでになんとかコンクールで演奏したいと、必死に練習を続ける毎日のようだ。もちろん1年生からコンクールに出ることのできるメンバーもいるが、厳しい毎日である。毎年、全国大会前の9月に1年間の活動の集大成として「定期演奏会」を行い、定期演奏会または全国大会で高校3年生部員は引退となる。

生徒たちの姿からは、ピリピリしたような独特な雰囲気は感じられず、のびのびと音楽を表現し、明るく仲間とともに笑顔で協力し合っている様子が印象的であった。ウォームアップや基礎練習は、音大生・芸大生並みの練習をしていて、刺激を受けた。

新体制になって一ヵ月。コンクールに来年度出るメンバーや合奏に参加するメンバーは、毎年かなり入れ替わるようで、0からのスタート。スタートしてから一か月の状態での練習や大切にしていること、日常を見学させていただいた。

勉強と部活の両立、人間力を高めることを大切にご指導されている様子があり、学校としては、東京大学や京都大学への進学実績、音楽大学・芸術大学への進学、NHK交響楽団の試用期間中など、プロとして活躍する先輩もいるようであった。音楽科はなく、英語や医学を専門とするコースなどがあり、吹奏楽部以外の部活では、サッカー・女子テニス、全国大会優勝という実績や、学校生活では様々な国との交流、研修旅行、ホームステイ、高校一年生は全員、礼法指導として茶道を学び、校内の生徒は落ち着いた様子・礼儀正しいふるまいや挨拶が印象的であった。部活でも、本番直前の練習終了後にお互い「お願いします。」と笑顔で握手したり、ドアの開け閉めの際の気遣いがあったりと、礼儀を大切にしながらも、周りを見て行動できている様子があった。学校としてのさかんな国際交流に加え、吹奏楽部ではドイツへの研修旅行・演奏旅行があり、大変貴重な経験をしているようであった。他にも様々な部活が活躍していて、体育祭では部活動対抗リレー、一年生のみ合唱コンクールがあったりと、勉強と部活を両立させ、人として成長し、充実した高校生活があるようであった。

2 部活動見学

①新体制初戦「バンドフェスティバル」へ向けて

15:00に授業が終了し、授業がまだあるクラスもあり、16:50~から合奏する場合は集合して練習が始まる。それまで個人練習を徹底していて、各自が音にこだわりを持って、ひとりになって練習している姿が印象的であった。

今回全員で練習していた曲は、G.マーラー作曲、交響曲第1番ニ長調「巨人」より第4楽章。大曲である。全国大会を10月に終え、新体制になって初めての初戦、コンクールの会場ともなっている倉敷市民会館にて「第48回バンドフェスティバル」が行われる。バンドフェスティバルへ向けての前日放課後練習、午前中の当日練習、本番の演奏から学ばせていただいた。

②練習において大切にしていたこと

練習の中での中川先生の言葉や生徒の様子、練習内容を下記に箇条書きにてまとめた。

- ・今の時期は、縦・音程・バランスよりもイメージを持ち、各自のしゃべり方・表現・やろうとしているものを変え、積極的に表現することを一番に大切にすること。
- ・身体の中の音楽表現を明確にすること、指揮と両足での足踏みカウントをして表現の歌を歌うこと、Perパートはどのパートよりもかなり歌っていて、メロディーや曲全体を把握して表現している様子があった。

- ・常にカウントし、表拍裏拍の意識を持つこと、表現のための指揮と歌、向かい方や音の重みを大切にしていた。
- ・歌や基礎練習は、常にグループやペアになり、お互いの音を聞き、隣の人に歌ってあげる意識を持つこと。
- ・合奏が終わった後は積極的に近くでの話し合いがあった。
- ・表現の追究、息のコントロール、向かい方、どこまでが1つのセンテンスか、時間でなく場所を合わせることに。

☆大人の演奏、プロオケの演奏が常に目標であるように、良い演奏を聴くところからがスタート、本番翌日も大阪へフリードリヒの金管アンサンブル演奏会鑑賞、DVDや動画、音源の共有を常に行い、ひとりひとりがこだわりを持って研究している様子があった。

- ・楽譜をカタカナ読みでなく、ネイティブなしゃべり方で読み、プロに近い表現をすること。
- ・オーケストラ曲、マーラーを演奏する上で、全員ポケットスコア購入・深く読んでいる様子があった。

☆一人で吹くにはいくら音痴でもよいが、一緒にやるときに楽しいように音程を合わせる、ユニゾンやハモリたいという気持ち、音程は合わないこと気づくように、年内の課題にすること。

☆A チューニング 合わせに行く音でないように、みんなでガンガンと吹いて曲で合うように、ずれないように回避しないこと、合わせる神経を常にもつこと。

☆基礎合奏は、音程ばかりにいきがちにならず、音楽する・音楽に集中すること。

・基礎練習（バランス練習や、ユニゾン練習など）では、2人ペアやグループになり向かい合い、お互いよく聞き合う姿があった。

- ・先生の話聞いて大切ところをメモしてノートにまとめておく姿、パートごとのミーティングの積極性。

☆ただ大きな音ではない、文章になっているように、フレーズのキャラクターでちゃんと喋ること

×叫ぶ、何も話さないは、なし

☆量でなく音楽のためのウォームアップをすること

☆指揮を見ることが目標ではない、隣と上手くやりたい、隣と一緒に次へ行けることが大切、隣やコンマスへの意識。

- ・1人だけ何もしていない人がいたとする→ ×みんなが気を遣って合わせてくれる

☆行動・演奏で「誰かがやってくれるから」、先生が気づいて「直したら？」は変、自分たちが気づいて直そうと思わないと。

☆無気力さでなく、真剣にしゃべらないといけない、「心ある演奏を」。

☆ここに向かう⇒誘う、この入りを誘おうと思うこと、隣の人をさそう、やりたいかどうか、できないのはしょうがない

い、技量が足りないだけ。

☆指揮で答えは見せている、指揮は全て誘っている、見るということではない、隣の人と上手くできるように、自分でできるように、ブレスマークで誘う部分をマークすること。

☆自分が主催者になること、自分からやることがない・いつも先生から・いやいややってないが、いやいやに態度が見える、隣の人を更に誘って。入るときに誘う、フレーズ吹くときに誘う。

☆譜面にしゃべってるのではなく、隣の人へしゃべること、隣をさそう、隣以上を誘う⇒合奏

☆しゃべらないと勘違いされる、従うのではなく作る、指揮の言うことだけを聞くのはわき役、主役になって表現すること

- ・わかってるけどやらない、ではなく頭にやりたいこと常に思い浮かべてカウントしっかりすること。
- ・メトロノームでは無感情、合わないパートに合わせた方が事故は起きないが音楽的にはおかしい。
- ・リズムで歩く、1と2と、自分で言ってカウントすること。
- ・冬のチャレンジとして、ソロアンサンブル発表会があり、ソロ曲やアンサンブル課題を発表会へ向けて練習している。

③まとめ

岡山学芸館高校のサウンド感を体感し、合奏での様子や日々の基礎練習、本番前の練習意識や様子を学ばせていただき、1音1音にこだわりを持って毎日コツコツと練習をし、全員で音楽表現を楽しむ一生懸命な生徒の姿があり、私自身も大切にしていきたいと感じた。ひとつひとつの活動・行動・練習内容・大切にしていることから、全国への一步一步の道が見え、私達塩尻中学校吹奏楽部も、より表現を磨き、積極的に表現していきたいと強く感じた。